《題不詳（風景／四手網漁）》1945–48年頃

開館20周年記念

Journeys
――宮本三郎　旅する絵画

□展覧会名　開館20周年記念　Journeys ――宮本三郎　旅する絵画

□会　　期　2024年9月28日（土）―2025年3月9日（日）

□休 館 日　毎週月曜日

年末年始【2024年12月29日（日）～2025年1月3日（金）】

10月14日（月・祝）、11月4日（月・振休）、1月13日（月・祝）、2月24日（月・振休）は開館

10月15日（火）、11月5日（火）、1月14日（火）、2月25日（火）は休館

□開館時間　10:00～18:00　入館は17:30まで

□観 覧 料　一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上/中小生100円(80円)

障害者100円(80円)

※小中高大学生の障害者は無料

※介助者(当該障害者1名につき1名)は無料

※( )内は20名以上の団体料金

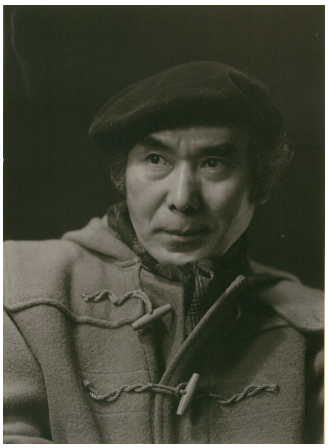
※世田谷区内在住・在学の小中学生は土日、祝休日は無料

□展覧会概要

石川県小松市に生まれた宮本三郎は、画家を志して17歳で上京し、30歳で世田谷区奥沢に
アトリエ兼住居を構えました。以降、奥沢の地を生活と制作の拠点としながら、生涯を通じてさまざまな土地を訪れます。
たとえば、戦前、戦後の2度にわたる渡欧生活で訪れたパリ、スイス、イタリアやスペインなどの各都市。
従軍画家として渡ったシンガポールやフィリピン。その後、家族との疎開生活を経て終戦を迎えた生まれ故郷の小松と金沢。
戦後の1950年代に訪ねた京都、奈良といった日本の古都。続く1960年代には、都市の復興と経済発展を
ネオン輝く夜景に見出します。宮本が赴いた、それぞれの場所と体験に着目して作品を見つめなおすと、
異なる景色や風土との出会いが、制作上の刺激やきっかけをもたらしたことがわかります。
そのとき・その場所との出会いがもたらした、時代と土地の空気をはらんだ作品の数々――宮本三郎の旅路を巡る、
絵画のトラベローグをお楽しみください。

□宮本三郎について

宮本三郎（みやもと・さぶろう）は、1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。
川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。
1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正　撮影年不詳

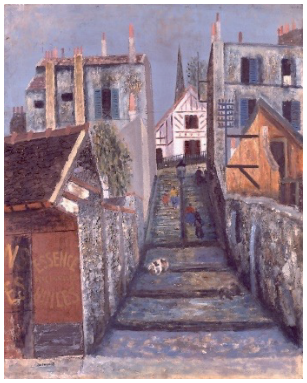
□会期中のイベント

ワークショップ、ギャラリートークなどのイベントは決定次第HPにてお知らせいたします。

参考：2024年8月10日～12日開催
「サマー・ワークショップ2024 わたしのカラーコーディネート」

開館20周年記念

Journeys
——宮本三郎　旅する絵画

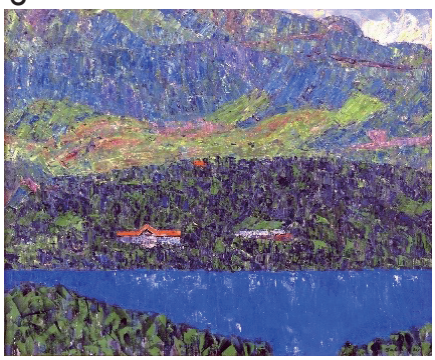
1


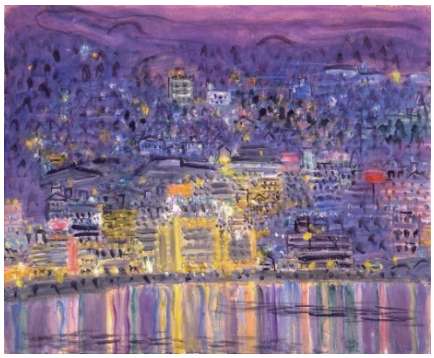
2

3

4

5

6


7


1《郊外の町》1939年

2《シャルトル風景》1939年

3《題不詳（編み物）》1945-48年頃

4《題不詳（風景/四手網漁）》1945-48年頃

5《唐招提寺》1959年頃

6《盛夏山湖》1963年

7《熱海夜景》1963年頃

□各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。

世田谷美術館分館
宮本三郎記念美術館
〒158-0083　東京都世田谷区奥沢5-38-13
TEL.03-5483-3836　http://www.miyamotosaburo-annex.jp/